

「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」開設の経緯

2014年3月28日、その日は村岡花子がモデルとなり日本中を楽しませたNHK連続テレビ小説『花子とアン』が放映される直前の日でしたが、お孫さんの村岡美枝、恵理姉妹が当学院の深町正信院長を訪問し、村岡花子先生の資料を学院に寄贈したいと、ご希望を伝えられました。

村岡花子先生の資料とは、先生のご長女で本学院高等部の卒業生でいらっしゃる故村岡みどりさんが、大田区大森の自宅にそのままのかたちで残る村岡花子先生の晩年の書斎を、1991（平成3）年より「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」とし、先生の著作物や蔵書のみならず同時代の児童書の保存をされてきたものです。文庫開設の意図には、はじめて『赤毛のアン』が紹介された当時からの読者の方々にはアンと出会った時の心のふるさとともなるように、また、現在の若い読者の方々には明治～大正～昭和と、「良い読み物を日本中の子どもたちに読んでもらいたい」という理想をもって生き抜いた女性がいたことを知っていただけるようにとの気持ちが込められていました。そしてお母様であるみどりさんのご遺志を村岡姉妹が引き継いでこられました。

学院では村岡家のお考えを継承し、また学院創立130周年記念事業とするために、2014年度内の資料受け入れ、新しい展示コーナーの開設を計画しました。本部・大学院棟1Fにあった「学院史料展示コーナー」を、村岡花子先生の書斎の雰囲気が少しでも再現できる場所となるよう拡大改修しました。また、たくさんの資料の保管場所として、大学院の協力により、収蔵庫の場所を確保することができました。

そして翌年の2015年3月24日、いよいよ「赤毛のアン記念館・村岡花子文庫」所蔵の村岡花子先生の著作や蔵書、書簡類、原稿、書斎の家具、身の回りの品々が学院に移されました。蔵書には翻訳の時に使用したであろう英語の辞書や、座右の聖書、愛読書、多くの洋書があります。東洋英和で学び、同窓会の役員、学院理事・評議員、また教師として、生涯母校のために尽くされた先生の資料を学院にご提供いただけたことは大変光栄であり、今後有効に活用させて頂きたいと思っております。「学院資料・村岡花子文庫展示コーナー」を訪れた在校生・同窓生・教職員をはじめとする学院関係者が学院の建学の精神に触れ、その一員であることの誇りを深く思う場所となるよう、また多くの学外の方々にご来館いただき広く地域や社会に貢献できる場となるよう、展示を行っていく所存です。